

福知山公立大学 2017年度入学式 式辞

本日、福知山公立大学に入学されたみなさん、おめでとうございます。本学の教職員をはじめここで働き学ぶすべての者たちを代表して、みなさんを新たな仲間として熱烈に歓迎します。

ご家族ご親族の方々にも心からお慶びを申し上げます。また、福知山市長様をはじめ、ご臨席賜りましたご来賓各位に厚く御礼申し上げます。式典の開会にあたり、先ほど、素晴らしい歌声で迎えてくださった福知山混声合唱団の方々にもお礼申し上げます。入学生のみなさんもこのように地域の多くの方々に祝福され、迎えられていることを心にとめておいてください。

さて、本学はまだ「普請中」です。昨年4月に私立の小さな大学を公立大学として再出発させたばかりの、地方小都市の一学部の本当に小さな改築工事中の大学です。

1910年、森鷗外は「普請中」という短編小説を発表しました。明治維新以来、日本は近代国家の確立をめざしてきたが、40数年たった今も西欧の近代文明の域にまだまだ達しておらず、「普請中」だと言ったのです。しかし、その西欧文明を「偉大さの無い物質主義が人々の考えにのしかかり」、「世界が、その分別臭くてさもしい利己主義に浸って窒息して死にかかっている。世界の息が詰まる」と、後にノーベル文学賞作家となったロマン・ロランが書いたのは1903年のことでした。

それから既に1世紀以上もたった現代。物質文明に加えて近年のIT技術の飛躍的發展などによって世界はまったく様相を変えてしまっています。日本は「普請中」だとは言えません。かつて先進とされた西欧文明も、もはや文明の模範でも物指でもありません。人類と自然との関係においても、人間相互の関係においても、私たちの生き方と価値観や文化のあり方をどう変えねばならないか。お手本が何処かにあるわけではなく、私たちの知恵と工夫で答えを見つけ出さねばならない時代です。

本学は、市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学という基本理念を掲げています。それは、自分たちの地域社会を持続可能な生活の場に変えていこうと今を懸命に生きている人びとから学び、その活動に加わり、それを通じて大袈裟に言えば人類史の未来に主体的に参画できる人間になるということです。培う学力とは、そういう生き方のできる意欲と能力のことです。

そこで私はみなさんに二つのことを期待します。みなさんはこれからここで大学生活を送りますが、みなさんと同世代の半分ほどの人たちはすでに社会人として働き、税を納め、私たちの大学を支えているのだということを片時も忘れないでください。これが一つです。もう一つは、その人たちも含めた地域の人びとの暮らしと営みの苦勞を共有し、その願いと自分の願いとを重ね合わせて、協働して新しい地域社会づくりに参画してほしいということです。それは、この大学の「普請」に加わることであります。地域社会づくりと不可分に結びついた大学づくりという、手本のない新しい大学づくりの担い手に加わるということです。そのためには、学習に励まねばなりません。本学は真剣に努力しないと簡単には卒業できません。

「世界の息が詰まる」と書いたロマン・ロランは続けて、「もう一度窓を開けよう！広い大気を流れ込ませよう！」と呼びかけました。

心の窓を大きく開き、新鮮な大気を胸一杯に、新しい地域社会と大学づくりをめざして共に歩み始めようではありませんか。

2017年4月3日

福知山公立大学長 井口和起